

そんなことがあってこそ

GBF ALTERNATIVE FICTION
SIEGRITE × PERCIVAL

 成人指定
DOKUSIN #18 For Adults Only



ハーシヴアル様

フェードラツへの
竜騎士団ですよ

あれが


この時期
山から降りてくる
野獣か魔物を討伐して
帰るところでしょう

フェードラツへには
女兵士もいるのか？

え？

どうでした
でしょうか

女性剣士を数多く排出している
アルピオンからの採用も
フェードラツへはなかったかと
記憶していますが




お前が先日
邪竜を討伐したという
ジークフリートだな




俺はパーシヴァルだ

明日から貴様と
同じ団に入隊する



いずれ祖国ウェールズに
帰る身ではあるが



フェードラックへ身を置く間は
この国の騎士となり
ヨゼフ王へと忠誠を誓う者だ

よろしく頼む



それで若くして
竜を倒したという
その英雄譚を
ぜひとも聞かせてほしい

もうさんざん
話しを請われて
飽しているかも
しれないが

……



……
構わないが

そうか！

……



たまたま生きて帰ったのが
俺ひとりだっただけで……

食事をしながらでどうだ
奢ってやる。
ついでに城下を
案内してはくれまいか

……
食事……

そういえば
道すがら帰城する
この騎士団を見た

ここには
女性もいるのか？

女？

聞いたこと無いな





鎧を脱げば
まあ女と見間違えるような
体格ではなかったが



若い頃の
ジークフリートさん
そんなに!?



ふふ

それでジークフリートは
どうしてお前の団に
留まることになったんだ?

今でも綺麗な顔だから
ちよつと想像できるけど
見てみたかったなあ



だがあいつがお前の旅を
見届けたいと言ったのは
それを聞く限り
貝の礼ではないな

なるほど
キサガギウムか……
それは俺からもお前に
礼を言おう









竜を打ち倒した功績で
彼を団長とした
騎士団を新設するという
噂は広まっていたが

ジークフリートとは
どこの生まれとも
わからぬ輩で

剣は強いが粗野で無作法
教養もないと
聞いていたが

王のその動きには
反発も大きく容易には
進まなかったという

俺がフェードラッへに
来た当時の奴はどこか
ぼんやりとしてはいたが
他の平団員よりずっと
心得ており

知謀を跳ね除ける
感の良さも備えていた

邪竜を退治した
英雄だというのに
褒美を授けられる前に

雑用のような
魔物の討伐にばかり
向かわされるのだな

給料なら
あがったぞ

今度新しい鎧も
貰えることに
喜ぶよ

聞いていつも付いて
くるんだらうらやま



出没する
魔物が強すぎる

そうだったか……？

しかし
そのときは
出来過ぎのように
思われたのだ

封印の曰くが
あった魔物や
伝承にある
古い精霊ばかり

フェードラックへでは
以前からこうだったのか？



お前は苦もなく
倒すから実感が
ないかもしれないが

封印されていたということは
その昔は討伐出来ないほど
やっかいな相手だったと
いうことだ

そしてそれを解いて
まわっている誰かがいる

これは覇空戦争以前の
古の魔術にも詳しい
何者かが




ひとりすれば

魔物をどんな深い
眠りからも起こし
怒り狂わせる
粉があるんだ


はあ？

そんな簡単に
いくものか

いくさ



俺もそれを
持っている




それが本当だと
して
貴様はどこでそれを
手に入れたんだ



あ……

どこだろうな。
拾った



まあまた
けが人が出る前に
倒せば
問題あるまい





艇内のサント役も仕事を終えて
飲みに行ったから
そろそろお前も
帰ってくる頃だと思ってな



こんな時間だ。
騎空艇に残った子供達は
みな寝ている



お前も飲むだろ



飲みながら
昔の話しましょう





それよりお前

この湖に住まう精霊が
人をたぶらかし操り
粉を渡して魔物を
起こしていたんだな

……

知っていても
なぜ俺の不信感を
煽るような
真似をした

む？

不信感？

それに
コソコソとして

元凶を討伐する
つもりとは知らずに
つい後をつけて
しまったではないか

俺を試して
いるのか？

なぜだ





お前はいつも
俺を見てる



瞳を覗いて
俺の心を見定め
ようとしている



力を測っている

価値を見極め
ようとしている

そっ
それはっ

貧血だ

胸を貸そう

無用だ





あの頃の
お前の舌は小さくて
引っこ抜けそうだと
思っていた



魔物と戦う以外でも
血が湧くのを知って

確かめずには
おれなくなったのだ

そんなこと考えて
幼い俺に
手を出してたのか

仕方あるまい



歳など



団長はお前に
必要な……



ふん

.....
家臣とは
肉体を繋がないと？

寂しそうな表情を
作ってもダメだぞ

それじゃあ
お前とこうしている俺は
この先もお前の家臣に
はなれないな



そうやって
お前は試す

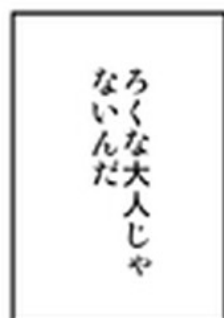
俺が悲しむ戯れ言さえ
平気で言う

.....
悪かった

酒が入ると
ほんとかわいくなって
しまうのはどういふことだ

はー

今宵を
俺と過ごすことを
選んでくれたのは嬉しい



ジークさんはグラブル作中で唯一
バーシヴァル & グランを推している人物で

自分もグランには多少なりとも運命的なものを感じてるのに
それをバーシヴァルに譲ろうとしている。

竜殺しの化け物じみたカンというやつなのか
謎の確信をもってアドバイスしてくるんですが、

旅を続ける必要のある限りグランは
真にバーシヴァルの家臣になることは無いけれども、
ジークさんはグランの旅に同行してその間にグランの橋古をつけながら
旅の終わりまで見届けるという。

ジークさんが面倒見いいのはもともとからだけど
バーシヴァルに対してだけずいぶん重い贈り物をしようとしてませんが